三和新報
THE SANWASHIMPO

第348號（昭和29年6月17日第三種郵便物認可）
日刊（日曜・祝・祭日を除く） 購読料 1カ月 50円

6月21日（火曜日）

発行所 三和新報社 平市六丁目 電472番

三井医院
小児科 内科
平市田町 電615

木材の百貨店
一般建築材・建具材
ベニヤ板類・銘木・秋田杉
津島松・木そ桧・ラワン材
米杉・車輌材・枕木・電柱
丸一材木店
工場 平市禰宜町電556
平市五丁目電290

パンは開花亭
平市五丁目
電二四二

建てても、たてても間に合わぬ
市営住宅も貧民には素通り
家屋不足は悲劇の温床

民主党が公約した住宅四十二萬戸建設も予算のフタをあけてみると民間の自主建築が半分以上の二十四萬五千戸で一杯食わされたような結果になつてしまつた。その昔そこにも、こゝにも貼つてあつた斜めの借家札などは今では拝みたくても拝めないし、ときたま新聞の三行広告に〃貸家〃というのがでるが、トビついてみると権利金が二十萬円、家賃が五千円とふつかけられては一般にはタカネの花だ。

衣食は戦前にかえつたのになぜ住だけがどうにもならないのだろうか…白麻のパリツとした夏服を着て高級レストランでフラシス料理を食べ、ビールを傾ける紳士がホロ酔いかげんで帰りつく吾が家は間借りの六畳に妻子八人が路地ウラのキウリ畑のようにゴロゴロ寝ていたりするのも珍らしくない

いつになつたら家のない悩みは解消されるのだろうか？平市役所建築課の窓口で今後の住宅対策をきいてみた―

市では二十九年度追加工事として下荒川に四戸、胡摩沢に六戸の市営木造アパート（一戸十一坪）と中神谷地内に県営の鉄筋二階建アパート二棟十六戸および市営住宅四十五戸をつくるほか仲間町の九品寺前に三十年度分譲住宅十五戸を建てる計画を進め更に中神谷には県営で四十六戸をつくりたい意向を明かにしているが、県営四十六戸は県の割当てが決つたワケでないからあくまでも皮算用だという。

こうして少しずつでも住宅は作られるが入居希望者は出来る住宅の数倍もひしめいており近く完成する胡麻沢の木造市営アパート八戸には丁度七倍の五十六名の入居者が殺到して七月下旬に行われる抽せんを待ちあぐんでいるまたこの前行われた抽せんには二十二戸に百七十三名の希望者が押しかけて八倍の競争率をみせそのときクジにはずれた百五十一名は次回をねらつて虎視タンタンとしている

胡麻沢のアパートは六畳、四畳半、四畳半（板の間）に台所、玄関、水洗便所に水道つきという文化的なものだが家賃もグンと張つて三千三百円で入居者は公営住宅法で月収が家賃の五倍額で更に家族一人につき千円をプラスしただけなければダメだというから、妻と子供一人をかゝえるものは一萬六千円の月収がないと入居資格がないワケで安サラリーマンは申込む前にオミツトされてしまうという。また月収三萬二千円以上のものもダメで、これは高給とりは自分で家を建てろという理由だそうだ。

入居者を決める抽せんは希望者の実態を市吏員が調査した資料によつて市長から依嘱された十名の市営住宅選考委員たちがA、B、Cの三クラスに分け、その場で当落がわかる三角スピードくじによつて行うことになつており八百長は絶対にないという。

それでは今までにいつたい市内には住宅がいくつ建つたかを調べてみると市営住宅（アパートを含む）は二十二年に百三十五戸、二十三年に六十五戸、二十四年に二十戸、二十五年に八十五戸、二十六年に三十戸、二十七年に四十七戸、二十八年に八十一戸、二十九年に三十戸と合計四百九十三戸、また県営住宅（アパートを含む）は六十一戸建つており二十二年度に建つた百三十五戸全部と二十三年度建築の六十五戸の大半は入居者に分譲されている。

今後の住宅問題について市当局では「今までは敷地難が悩みのタネだつたが合併によつて新市内から敷地を物色できるようになつたから敷地難は大巾に緩和された」といつておりこれからの市営住宅は旧市内を中心として新合併地域に建てられる見通しである。

住宅難から生まれる悲劇も数多い。六畳一間に夫婦と思春期の子供が雑居していたために子供が見よう見まねで性戯を覚えて性犯罪を犯したり、せまくて寝苦しいところから子供が夜あそびに走つたりその悪影響は深刻である。

市営バスなど上提
二十八日平市會

六月定例平市会は二十八日午前十時（予定）から議事室で行われるが各課の追加予算のほか市営バス運行、跨線橋問題などが上提されるもようである。

夏まつり豪華商店ショウ
七月三日盛大に開幕
全国初の独創的催し

本社では本紙創刊一周年を記念し、「夏まつり豪華商店ショウ」を開催することになりました。この催しは当地方の会社団体、有名商店の参加による芸能と宣傳の豪華なヴアラエテイであり全国初の催しとして舞台芸術に一新紀元を劃するモデルケースたるを自負、敢えて当地方の商、工業界に捧げる独創企劃であります。具体的な内容については連日本紙上に発表いたします。何卒、各位の御支援と御期待をお願いします

とき 七月三日（日）昼夜二回
ところ 平市公会堂 本館

主催 三和新報社
後援 平市役所 常磐炭鉱

湯本よいとこ温泉美人人気投票
20日現在

勝利、再びトップへ
モナミの京子急進出

第一部

九五一	つた本	勝利
九一三	湯の香	まねぎ
七四一	壽	かの子
七二三	翠月	月太郎
七一五	湯の香	〃香
六五三	久の屋	小玉
五三五	とどろき	けい子
五〇八	鈴本	鈴代
四九二	千代萬	千代菊
四三三	美ね本	君奴
四〇一	寿	すみれ
三五一	梅本	千成
三一一	松の家	ほたん
二三一	磯の家	若奴
二二五	つた本	ひな子
二二三	松の家	喜美丸
二〇〇	湯の香	小菊
一九八	寿	小鳩
一八三	いく本	くるみ
一五五	湯の香	小りん
一五一	芳の家	文代

（百票以下略）

第二部

八三一	モナミ	京子
八〇五	らんぶ	ユリ子
七六二	山形屋	千代子
七五五	美里	キヨ子
六八五	美津和	ミツ子
六六八	ひさご	桃子
六一八	三平	時子
六〇一	北京亭	信子
六〇〇	伊勢屋	春子
五九五	モナミ	初枝
五九一	伊勢屋	静枝
五八三	緑屋	初枝
四一五	山形屋	豊子
四〇八	こいと	サダ子
三五二	ひさご	夏子
三二八	松しま	スミ子
三〇一	岩惣	トミ子
二二八	緑屋	スエ子
二二一	伊勢屋	元子

（百票以下略）

パンは東京堂
平サイツチ小路
電一一〇八

アパート入札

二十九年度県営住宅追加として平市に割当られ鎌田山に建設予定のアパート二棟（一棟六世帯）の入札はこのほど県庁で行われ四百四十五萬円で磐城土建と東部産業に落札した。

競輪売上げ三千五百萬

六月平競輪後節は二十日終つたが売上は千七百八十萬一千四百円で前節を加えた総売上額は三千五百三十五萬四百円、五月より百五十萬円少なかつた。なお七月からは六ワク制を採用し車券は単復をやめて連勝一本槍で売る。前節九、十、十一日、後節は十六十七、十八日。

五市親善野球

県下五市親善野球大会は二十三、四の両日郡山市でリーグ戦を行うが平市役所チームは二十三日、郡山、福島、二十四日は白河、若松の順で対戦する。

平和と人権を守る夕べ
卅日湯本で

常磐市湯本地区平和委員会主催の平和と人権を守る夕は三十日午後六時から公民館でひらき衆議院議員河上貫一博士の講演の後中国革命の映画「中国人民の勝利」を上映する。

恩給やっと出る
昨年の退職教員に

昨年四月退職した石城郡下の老令教員二十四名の恩給は予算不足で支給が延び延びになつていたが、このほど金繰りがついて二十一日県教委石城出張所から総額三百五萬円が支払われた。一人平均十二萬七千円で、ゴツソリ一度にコロゲ込むと退職教員大よろこび。

産業安全週間
七月一日から

平地区産業安全衛生協かいでは七月一日から全国一斉に行われる産業安全週間に啓蒙宣伝チラシを配布するほか宣伝カーやスライドを使つて協力をよびかけ最終日の七日には安全大かいを開いて功労者の表彰式を行う。

エキリ 平市童子町橋本日出子ちやん（七つ）は二十日疫痢と決定、隔離された。

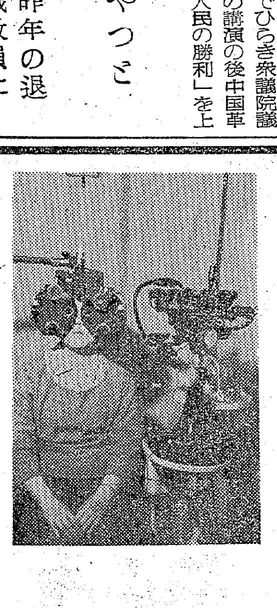
湯本温泉美人投票用紙

氏名	屋号

三和新報

字はハツキリ書いて下さい。

もり かけ そば 30円
百両

AOB製世界最新式検眼機

玉屋眼鏡店 TEL910

柳川鍋 蒲焼 寿司の
江戸川
紅小路店 電一四五六
才槌小路店 電一〇二一

BS 自動車タイヤ
バンドー自転車タイヤ
平ベルトVベルト水道ホース
横山商店タイヤ部
平市二丁目 電話九四番

俳優座公演特集

「夜の來訪者」三幕

演劇に思う

鈴木敏郎

演劇というと、とてもかた苦しいですが、所謂お芝居について、私は観賞したり、批評したりするのは得意ですが、筆をとつてかくとなると一寸参つてしまう。「ルナール」は芝居は芝居の事をなんにも知らない人々によつてのみ革新されるだろう、と書いておりますが実際だと思います。

戦後各地で演劇が活発に公演されておりますが、それは素人が好きなまゝ同好者によつて始められたのではないでしようか。私についても同じで、東京にいる時随分お芝居をみましたが、まさかこちらに来て、演劇部を指導するとは思つていませんでした。

石城地区には昔から文化には縁の遠い処とされているようですが私はそうとは思つていません。確に浪花節的文化はあります。而し一方に於てプロムジカをきくため雨にもまけず集つてくる文化人もいるのです。この二つの断層は大きいかもしれません。でも、これを一緒にしよう、片一方に寄せようと思うのが間違いです。これは何処にもあるのです。私達でも矢張り三亀松の渋い歌を聴きたい時があるのです。無理して背のびする必要はないと思う。

演劇にも三夜劇場にかかるお芝居、公会堂や平三小講堂で時々上演される寸劇、この間の断戸を私は問題にしない。何故かというとこの地域の演劇サークルは職場でも高校でも、県下でも優秀なサークルです。自慢するなら東京に出しても恥しくないと思います。じやそれらを演出し演技する人は全てインテリの手女によつて構成されているかというとそうではないありとあらゆる地域からきている人々によつて構成されている。家庭に入れば昔風の生活唯ラジオがうるさくレジヤズをガナりたてるでもその中から成長してくる若い魂は最も強度の高い演劇を理解し演技してゆく事が出来る。而もそれは演劇部のものだけでなくあらゆる人々についていえるのです。

こうゆう事を考えますと、石城の文化を心配する事はないのです唯、それを引き出してやる機関があればよいのです。或はそうゆう意味でよい劇団を招聘し刺戟を与えてやる事が必要でしよう。

くりかえすようですが、高校の演劇、職場の演劇すべて優秀でしたでも東京の新劇の真似というだけでなく、矢張りこの風土に育つた演劇が欲しいと思います。

勿論、どんな演劇でも同じ物はありません。それはどんな偉大な画家でも同じ画は二度書けないと同じです。その人の個性により創造される人間像は絶対に真似は出来ません。そこに演劇の喜びがあると思います。それを倍加するのが創作劇でしよう。私達が自ら努力して作り上げ上演する喜び、これは演劇をやるものでないとわからないと思います。而もその内容がこの風土に、私達の生活から生れるとは……。

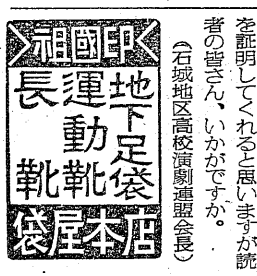
演劇は全人格的なものです。唯口先だけで云つても、立派なものは出来ない。お互の魂がふれあいさくりあい、自然に相手に体得されてゆく、それ迄の苦しみ、あがき、何とかしようしようと最後まで争う。

この心のぶつかり合い、それが私達の風土から生れ、それを発表し、発表を通して観客と結びつく観客と演劇をやる者とは離れているものではなくてお互に交流をもち、ともに向上を期待しているものなのです。

私の夢は立派な演劇をこの風土から作り上げる事です。

この夢もなんにも知らないから云えるのでしよう。でも矢張りこのような人々によつて演劇も革新されるのではないでしようか。戦後十年間のこの地域の演劇がこれを証明してくれると思いますが読者の皆さん、いかがですか。

(石城地区高校演劇連盟会長)



高校演劇小論

色川慶子

私が演劇クラブに入つて以来もう二年半も経つてしまつた。過去二年間、一体演劇の何を学び、又何をして来たのかと、考えこんでしまう事さえある。確かに先輩や後輩と共にコンクールのスリルを味わい、又喜びにひたり、一度は女ばかりの学校故に味わねばならない舞台装置の大工仕事に、寒い日等は泣きたくなつた事は一度ではなかつた。こうした喜びや苦しさを共に味わいこれを毎年くり返して来た事だけは覚えている。

しかし真の演劇というものはこれで良いのであろうか。ここに大きな問題がある。

ある人がいつか私に「貴女は何の為に演劇をしているのですか?」と突然訊ねた事がある。改たまつてそう聞かれたので「ただ何とはなしに好きだから、自分の趣味を生かすために」と答えた。すると「そんなあつさりした考えでやつているなら演劇をやる時間に、他のもつと知的な勉強でもした方が良い」という返事。私もはじめのうちは、それもそうだと思つたがしかしその時の私は真の演劇というか、演劇の本質というものを理解せず、ただうわべだけのものしか見ていなかつたのだ。そうかといつて今でもまだまだわからないが要するに学生が演劇をするという事は、演劇という芸術を通して人生を学ぶためであり、人間の美しさ、正しさ、強さ、またその裏面にある醜さ、不正、弱さ等々、あらゆる疑問にふれて、そこから生きる喜びや、真理の道を発見するのだとおもう。こうした面を演劇を通して具体的な表現で人間として、又学生として学びとるという事になる。演劇におけるもう一つの大きな目標は、演劇をつくりまとめあげて行くという事にあるこれは一人や二人では当然不可能な事で、ここにおのずからチームワークが必要になる、その点集団の力が要求されるスポーツと同じで、スポーツにスポーツマンシップがある如く、演劇精神がなければならない。これと同時に観劇のしかたにも問題が生ずる。演じる人が演劇精神をもつて演じるならみる人もそれに相応した見方、つまりぼんやり舞台を眺めてはいけない。一つの劇というものから何かを感じなければならないのですゲーテは観劇の褒慶として「粗野な人間は何かの出来事が目前に起るのをみさえすれば満足する。教養ある人間は感じようとする、考察という事はただ非常に完全な教養を持つ人間だけにとつて有益なのである」といつているが、なるほどとうなづけるこうして演劇に対する目が高まつて行けば、一歩でも早く人間完成への道が得られるとおもう。

そうしてこういう人達のためにも我々演劇部は、よりよい学生演劇を生みだそうと努力をつづける。

(磐女高演劇部主事)

「俳優座」第九号出来

俳優座機関誌第九号が出来上つた内容は、「夜の来訪者」特集で青山杉作の「上演について」、内村直也の「夜の来訪者」。杉山誠の映画「夜の来訪者」を見て、千田是也の「十年の歩み」その他で全頁アート紙使用、多数の写真版が挿入されている。二十三日上演の際のよき手引となるもの。一部五十円。当日会場で発売される。

演劇教室ひらく

二十三日夕の上演を前に、同日午後、磐女高講堂で、内村直也、東野英治郎、加代きみ子氏等によつて「上演されるまで」の特別演劇教室がひらかれる。

(水素演劇部長)

白傍

～俳優座平公演を前にして～

千田是也

芝居の仕事にかかり出すと、実に月日が早くたつ、それに比べて昨年劇場の出来上る迄の一年間、劇場の落成を待ち乍ら、映画やラジオにばかり出演している間のなんと長かつたことか。やはり、私共は、とことん芝居の人間なのだと思う。

芝居を一年以上もしないでいるというのは、随分つらい事であり随分無理な事だつた。

そしてともかくも私たちの劇場が出来上り、この劇場を根城にして、自由な活動が出来るようになつたのは、私どもの運動を理解し支持して下さつた方々のお蔭である。

しかし、私どもが、劇団の十年の歴史を通じて、みんなで力をあわせる事の有難さを身をもつて知つたこと、劇団の規律とか計画性とかをいつも重んじてきたこと、泥にまみれて土方をするのを恐れぬ気風をなんとなく身につけて来たことも、やはりあずかつて力があつたのだろうこれは決して、だれが目先が利くとか、うまく事をとりさばくとか、その事で済ませる事柄ではない、劇団みんなの力で出事たことだ。

この歴史を、これからも私どもは、大いに大事にしてやつてゆこう。

昨年度は、四月に劇場が建つてから、私どもは五本の本公演を持つことが出来た、「女の平和」「赤いランプ」「イワーノフ」「若人よ蘇れ」「教育」である。

今年に入つてからも、ひきつづき俳優座劇場での東京公演は続けているが、地方公演を持つ事になつたのは、実に久しぶりのことである。

昨年度、私どもは、大阪、京都名古屋には二度行つているが、これは地方公演と名付ける可きものではない。

地方公演と云えば昭和二十六年の夏以来の事である。この年私どもは、AB二班に別れ、A班は千田是也、松本克平、岸輝子、永田靖、中村美代子、稲葉義男他と云う編成で、東北、北海道各地を巡演したから、御記憶の方もいらつしやると思う。同じ時期にB班は、小沢栄、東野英治郎、村瀬幸子、信欣三、他で中国地方を巡演していた。

私どもは、こうして地方にいゝ芝居を持つて行けるのを非常に嬉しい事だと思つている。

再び落ちついてこういう活動が出来るようになつたのも、私どもの劇場が建つたお蔭である劇団スケ1ジユールのゆるす限り、今後も度々、地方公演を持つて演劇の中央集権性を打ち破るつもりでいる。

(俳優座演技部)

「夜の來訪者」公演

とき　六月二十三日(木)午後六時半

ところ　平市公会堂

会費　百七十円

主催　石城地区高校演劇連盟

後援　平市教育委員会

尼子会

職場演劇のことなど

坂野希

戦後、職場を中心とした文化活動が積極的に行なわれ、なかんづく演劇なども、職場演劇という新しい形をもつて民衆の中に成長してきた。うちの演劇部も、つい先日、春の公演をもつたばかりですつたものは、三好十郎の「獅子」でしたが、あちこちの職場演劇グループも、きうと活発な動きをみせてるること、思います。

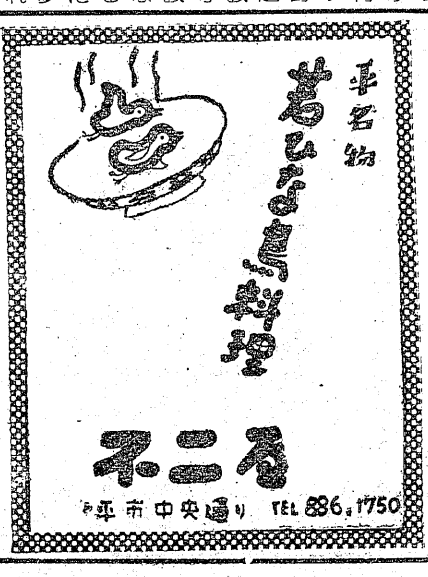
今月の二十二、三の両日にはもなく、二十四、五名の人達が、舞台の裏に表に、適材適所に、各自の個性のまゝにデモクラテイツクに活動しています。

春秋の定期公演の外に、演劇部が世話役となつてやる年中行事に各職場の各課を単位としての演劇コンクールというのがあつて、既に数回を数え、なかなかの好評です。各職場の特色が如実にあらわれ、現代劇あり髷物あり、笑劇ありといつた具合で、その熱演に審査員も順位をつけるのに頭を悩してるようです。昼休みや、勤務の終つてから倉庫の一隅を片附けての仮舞台で、時間のたつのも忘れて練習してるのを見るとき、現実の自分達の生活の中に、成長しつゝある演劇を身近かに感じさせられます。又、毎回必ず新しい人達が舞台に登場するのも、大きな楽しみの一つです。今迄全然興味もなかつた人を、熱心な人達がなんとかかんとか理窟をつけて否応なしに舞台にあげてしまう。ところが不思議なことに来だにそれが原因で苦情を持込まれた経験は、私にはない。きうと舞台の上の全身の緊張と生命の充実感の中に、自由でそして新しい自己表現の可能性を見出した喜びの方が素晴らしかつたからだろうと、いさゝか自慢れてる次第です。ともかく、こんな風にしてわれわれの演劇活動に協力してくれる人達の増えることは、本当に嬉しいことです。

観衆という要素によつて、演劇は最終的な自己の目的を達成することが出来るが、現実の生活につながる新しい生活経験というか、社会生活というか、そういうものを芝居を演る人も観る人も、共に感動として受取つたときに、はじめて演劇活動の文化的な価値が生れてくるのであるが、実際には理窟で云うような生易しいものではないようで、常に大衆の公約数を求めながら、地道なそして根気のいる活動のようです。大衆の興味だけに媚びることもなく、又大衆が浮び上つて、一部愛好者の所有物になることなく、現実の世界観にうらづけられた、われわれの生活の上にしつかり足をつけた活動が、職場演劇を今後共成長させてゆくものと私は信じています。

(水素演劇部長)

平市古殿冶町(県社下)
性病
皮膚病科
矢吹医院
電話一、一九三番



書籍と文房具
ヤマニ書房
平駅前　電七七七

食肉は
シモフリ牛肉
売特大
ロース　百匁　二五〇円を二〇〇円
上肉　二三〇円を一八〇円
中肉　一八〇円を一六〇円
並　一四〇円を一二〇円
日本メーカーの鎌倉ハムとソーセージ
本店　平市一丁目　電五三九
社名会合
支店　平市中央通り　電七九四
支店　平市銀座通り　電一二二七
社長　大塚駒太郎
緑屋